

古代から続く祈りの道 - 大和の石仏巡行 -

第7回 宇陀市・旧街道沿いの石地藏さん



元 久留米工業高等専門学校教授
伊藤 義文

1. 地理

大和と伊勢を結ぶ旧街道は図1に示すように、北から“あを越え道”（初瀬街道）、伊勢本街道、和歌山街道の3ルートが知られています。このうち、あを越え道と伊勢本街道は現在の宇陀市・榛原で分かれ、“あを越え道”（初瀬街道）は三重県・名張市を通過して青山峠を越えて伊勢参宮街道に通じる街道で、現在の近鉄大阪線に沿った比較的平坦なルートです。

一方、伊勢本街道は北緯 34 度 32 分、いわゆる太陽の道^{*}と呼ばれる地球儀上の架空線にあり、三重県・伊勢奥津（美杉町奥津）を通り伊勢神宮に行く最短のコースですが、険しい山道が多く旅人に恐れられてきました。



図 1 大和と伊勢を結ぶ旧街道案内図

^{*}太陽の道：春分の日と秋分の日には太陽が通るラインのことで、このラインには古墳、神社、寺が並んでいると言われている。東は伊勢湾と太平洋の分水地の神島から、西は淡路島の伊勢の森といわれる舟木石神座までの約 200 キロを指す。伊勢本街道には箸墓古墳、檜原神社、長谷寺、室生寺、御杖神社、伊勢斎宮跡など伊勢に関係する寺社が多く存在している

今回ご紹介する大内峠の六地藏（図1 ㉖）は伊勢本街道の最高地点である石割峠（標高 695m）から東に行った上田口集落の外れの山道に祀られています。アプローチとしては、国道 369 号の弁財天隧道西側上内牧から、上田口に抜ける山道（図 2）を 30 分程度登ると旧街道に出て、しばらくすると石仏に到着します。途中枝道が多く標識も不完全なため、試行錯誤しながら到達した次第です。

一方、向^{むこうし}瀨の穴薬師石仏（図1 ㉗）は、近鉄大阪線の室生口大野駅付近の県道 28 号線を西北に行くと、向瀨の集落の外れの県道の南側に面した場所に祀られています（図 3）。



図 2 大内の六地藏標識（上内牧）



図 3 宇陀市・向瀨穴薬師看板



図4 大内峠の六地藏



図5 主尊・地藏菩薩立像

共に交通安全を祈願して村外れに石の地藏さんとして祀ったものと考えられます。

2. 大内峠の六地藏

大内峠の六地藏は、高さ220cm、幅220cm、奥行180cmの安山岩自然石に彫られており、石の上には笠のような平たい石が載っています(図4)。石の正面には、主尊の地藏菩薩が浮き彫りにされています(図5)。時代的には室町時代後期の作と思われます。また、石の左側面には阿弥陀三尊の線刻像が彫られています(図6左)。さらに右側面にも仏様の線刻が残っていますが(図6右)、劣化が激しくはつきり分かりません。これらは江戸時代初期に後彫されたと考えられます。現在は大内峠の六地藏と呼ばれていますが、以前は両側面の仏像を加算して大内峠の十三仏とも呼ばれていました。

3. 向湊の穴薬師石仏

穴薬師と呼ばれる向湊地藏三尊石仏は鎌倉時代中期、建長六年(1254年)の作で、高さ179cm、幅179cmの正八角形の石棺の蓋石を使用した祠(図7)の中にいます。図8に示すように、中尊の像高は130cmで、右手に錫杖、左手に宝珠を持つ地藏菩薩立像を厚肉彫りしています。脇侍の地藏菩薩立像は像高93cm、右手は与願印、左手は宝珠を捧げ、地藏三尊としては最も古い形式を示しています。中尊に向かって右の像の間に「建長六年(1254年)二月卅日、大施主宗岡氏下司、沙弥善定」、下方に「宗岡守定」「高橋正末」の刻銘があります。

4. まとめ

大内峠の六地藏は、山の中の自然石に浮き彫りにされた地藏菩薩立像で、のちに両側面に阿弥陀三尊などを追加したものです。春になると石楠花が咲き、近くには水が湧き出ているところがあり、道中旅人が休憩する場所に祀ったものです。

また、向湊の穴薬師と呼ばれる地藏石仏は、鎌倉時代中期の祠の地藏石仏として貴重な遺物で、宇陀市の指定文化財になっています。今回の石仏の動画はYouTubeにアップ

左側面：阿弥陀三尊

右側面

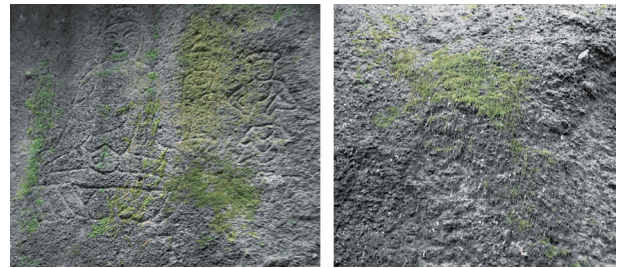


図6 側面の線刻仏



図7 向湊・穴地藏の祠



図8 向湊の穴薬師三尊

ロードしていますので、ぜひ次のキーワード検索で美しい動画をご覧いただければ幸いです。

・検索：宇陀市・榛原の旧伊勢本街道・大内峠の十三石仏 - YouTube

URL： <https://studio.youtube.com/video/DMgkQf1B1fc/edit>

・検索：宇陀市室生・向湊、小原上笠間の石仏 - YouTube

URL： <https://studio.youtube.com/video/R-fyF5RBPV8/edit>

著者略歴



1947年生まれ。72年、京都大学大学院卒業。以降、民間企業にて真空蒸着技術のフィルム応用や各種包装材料の開発に携わる。2004年、久留米工業高等専門学校教授。15年、退職。ライフワークとして石

仏調査を行い、その成果をYouTube (<https://www.youtube.com/channel/UCvJiTXSHW2MoqwzdzpszXcOQ>) に公表している。

✉ itou910@zeus.eonet.ne.jp